

令和 7 年 9 月 1 0 日判決言渡

令和 7 年（ネ）第 1 0 0 2 5 号 職務発明対価請求控訴事件（原審・東京地方裁判  
所令和 5 年（ワ）第 7 0 4 9 5 号）

口頭弁論終結日 令和 7 年 6 月 3 0 日

5		判	決
	控 訴 人	X	
	同訴訟代理人弁護士	高 橋 淳	
10	被 控 訴 人	ニ デ ッ ク 株 式 会 社	
	同訴訟代理人弁護士	黒 田 健 二	
	同	吉 村 誠	
	同	森 川 幸	
15	同 補 佐 人 弁 理 士	松 本 孝	
	主	文	

- 1 本件控訴を棄却する。
- 2 控訴費用は、控訴人の負担とする。

#### 事 実 及 び 理 由

- 20 第 1 控訴の趣旨
- 1 原判決を取り消す。
  - 2 被控訴人は、控訴人に対し、1 億円を支払え。
- 第 2 事案の概要（略称等は、特に断らない限り、原判決の表記による。また、原  
判決中の「原告」、「被告」はそれぞれ「控訴人」、「被控訴人」に読み替え  
る。）
- 25 1 本件は、控訴人が、被控訴人が有する我が国における特許（特許第 3 8 2 8

4 5 7 号)に係る発明(本件日本発明)、米国における特許(US 6 9 1 4 3 5 8 号)に係る発明(本件米国発明)及び中国における特許(CN 1 2 3 3 0 8 1 号)に係る発明(本件中国発明)は、いずれも控訴人の職務発明について特許を受けたものであると主張し、被控訴人に対し、特許法 3 5 条 3 項(平成 1 6 年法律第 7 9 号による改正前のもの)に基づき、職務発明に係る特許を受ける権利の承継についての相当の対価として 1 億円の支払を求めた事案である。

5 原判決は、控訴人が本件日本発明、本件米国発明及び本件中国発明(本件発明)の発明者又は共同発明者であるとは認められないとして、控訴人の請求を棄却したので、控訴人が原判決を不服として控訴した。

10 2 前提事実、争点及び争点に対する当事者の主張は、次のとおり補正し、後記 3 のとおり当審における控訴人の補充主張を付加するほか、原判決「事実及び理由」(以下、「事実及び理由」の記載を省略する。)第 2 の 2、3 及び第 3 (2 頁 1 0 行目から 1 3 頁 1 行目まで)記載のとおりであるから、これを引用する。

(1) 原判決 2 頁 1 9 行目冒頭から 2 0 行目の「提出した。」までを次のとおり改める。

15 「控訴人は、平成 1 3 年 1 2 月 4 日付けで、被控訴人に対し、『発明・考案説明書』と題する書面(甲 6 の 3 1 枚目から 3 3 枚目まで。以下『控訴人説明書』といい、同説明書に記載された発明を『控訴人発明』という。)を提出した。なお、控訴人は、本件発明をもって職務発明と主張するものであり、本件発明の完成に控訴人が貢献したことを示すために、控訴人の創作に係る技術的思想の部分を控訴人発明として主張するものである。」

20 (2) 原判決 3 頁 2 1 行目及び 2 2 行目の「原告発明」をいずれも「本件発明」と改める。

### 3 当審における控訴人の補充主張

25 (1) 控訴人の平成 1 3 年 1 2 月 4 日付け「発明・考案説明書」(控訴人説明書)以外の貢献

(省略)

5

10

15

20

(2) 控訴人の技術がどのように関係者に伝わって貢献したか  
(省略)

25

5

10

15

20

(3) ブレイクスルーの経緯  
(省略)

25

5

10

15

20

25

15

## 20

## 25

A 6x20 grid of black dots. The first five rows are complete, each containing 20 dots. The sixth row contains only the first 10 dots, forming a stylized letter 'A'.

ところで、本件日本発明の技術的特徴（本件技術的特徴）は、軸受部材には、その一方が前記スラスト軸受部の半径方向内方に開口し前記ラジアル軸受部の軸線方向一方端部に連通するとともに、その他方が前記ラジアル軸受部の他方端部に連通する連通孔が形成されていることである。控訴人説明書の文章による説明（上記①、②）は、連通孔の具体的構成については何ら言及するものではなく、それとは異なる課題と解決手段を説明するものであって、そこには本件技術的特徴が示されているとはいえない。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●控訴人説明書は、その全体として、  
本件技術的特徴を、新たな発明の内容を成す技術思想として説明するもの  
とは言い難い。したがって、控訴人発明は、本件技術的特徴を備えるもの  
とはいえない。」

- (2) 原判決 19 頁 24 行目の後に改行して次のとおり加える。





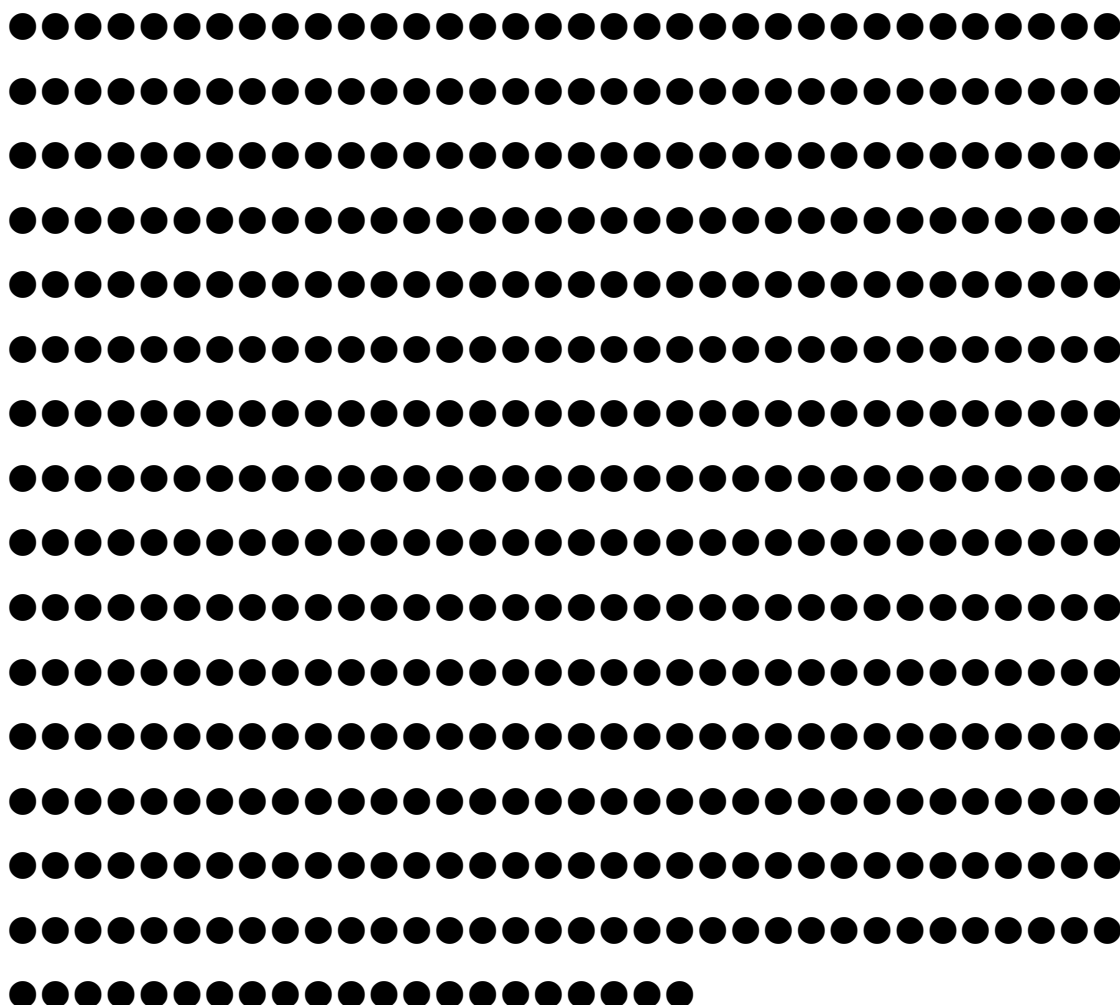




5

10

15



したがって、控訴人の上記主張は採用することができない。

20

(4) そして、上記(1)ないし(3)の主張を含め、控訴人が当審で主張する内容を検討しても、原判決が判断するとおり、本件で認定できる事実（補正の上で引用した原判決第4の3）によれば、本件発明は、控訴人が関与することなく、B、Aらが独自に着想し、その具体化したものと認められるから、控訴人が本件発明の発明者又は共同発明者であると認めることはできない。

25

4 その他、控訴人が縷々主張する内容を検討しても、当審における上記認定判断（原判決引用部分を含む。）は左右されない。

## 5 結論

以上によれば、その余の争点について判断するまでもなく、控訴人の請求は

理由がないからこれを棄却すべきところ、これと同旨の原判決は相当であり、  
本件控訴は理由がない。

よって、主文のとおり判決する。

知的財産高等裁判所第3部

5

裁判長裁判官

10

中

平

健

15

裁判官

今

井

弘

晃

20

裁判官

水

野

正

則